



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～
【地元の声や要望を中央へ伝える・・・】

山々の木々が黄金色に染まり始め、福島町の紅葉が見事なコントラストを描いて、冬の足跡が日増しに感じられる季節となりました。

町内では、十月から十一月まで文化やスポーツイベントが多く開催されており、その様子が北海道新聞や函館新聞で紹介され、故郷の様子が報道を通じて広がっております。

町長に就任する前の話ですが、町内のおばあさんから「最近福島町の話題が新聞に載らないね」と言われたことがあります。

内容は別として、自分の町の話題が新聞の記事で紹介されることは嬉しいものです。

町でも広報を通じて毎月一回、まちの行事などを報告させていただいておりますが、新聞媒体には到底かなわないものです。私はよく職員の方々に、自分の仕事を知ってもらうためにも新聞等の

マスコミを活用してくださいと、お話をさせていただいております。少しずつではありますが、その効果が表れてきているような気がいたします。

他の町村に比べて福島町の話題が新聞に載ることが多くなり、他町の町民からうらやましがられることが多々あります。

これからも常に情報発信できるよう、職員と共に頑張つてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

十月二十三日(火)に、北海道マリンビジョン21促進期成会の中央要請に参加し、農林水産省水産庁、国土交通省北海道局及び財務省並びに北海道選出の衆・参議院議員へ要請を行いました。

マリンビジョンとは、水産業や地域の振興方策である「地域マリンビジョン」を市町村や漁業協同組合が中心となつて、漁港を核としながら水産業

や地域活性化の取り組みを主体的に推進している地域の呼称で、全道で三十市町と三十二の漁業協同組合が「北海道マリンビジョン21促進期成会」を構成し、毎年国などに要請活動を行つております。今回は、期成会会長の留萌管内の森苦前町長を団長に、松井積丹町長、小野礼文町長と私の四人で要請活動を行いました。

当日は、朝から要請を開始し、夕方までタイトなスケジュールでしたが、新たに農林水産大臣に就任した北海道選出の衆議院議員の吉川貴盛大臣にも直接、大臣室で要請することができ、福島漁港の取り組みとして、蝦夷アワビの陸上養殖の状況や株式会社ヤマザキと連携している「食べる昆布」の取り組みなどを説明することができました。

また、国土交通省北海道局及び財務省においても、福島漁港の取り組み

をしつかりと伝えることができ、大変有意義な要請活動となりました。

十月二十七日(土)に、長崎県の友田松浦市長からお招きをいただき、長野県木曾町の原町長と共に、水軍まつり・全国鯖サミットへ参加をさせていただきました。

水軍まつりは、松浦市が水軍で有名な松浦党の根拠地であったことに起因するイベントです。全国鯖サミットは、全日本さば連合会が主催しているイベントで、全国の鯖の産地がそれぞれの特産品を販売するもので、八戸市や銚子市など名だたる鯖の産地が参加しておりました。

来年度は、長崎県松浦市・長野県木曾町と当町が新たな友好を締結して十年目となることから、次回は木曾町において十周年記念調印式を執り行うこととしております。